

# 目次

はじめに	v
謝辞	i
第一章 倫理の根拠	1
一・一 美学	2
一・二 行為者性	4
一・三 権威	7
一・四 自律	11
一・五 ケア	13
一・六 性格	16
一・七 良心	18
一・八 進化	21
一・九 有限性	24
一・一〇 繁栄	26
一・一一 調和	28
一・一二 利害	31
一・一三 直観	34

一・一四	実力	36
一・一五	自然法	39
一・一六	ニーズ	42
一・一七	苦と快	44
一・一八	啓示	48
一・一九	権利	50
一・二〇	共感	54
一・二一	伝統と歴史	56
第二章 倫理学の枠組み		
二・一	帰結主義	60
二・二	契約主義	63
二・三	文化批判	66
二・四	義務論的倫理学	68
二・五	討議倫理学	70
二・六	神の命令	73
二・七	利己主義	76
二・八	快樂主義	79
二・九	自然主義	82

二・一〇	個別主義	84
二・一一	卓越主義	87
二・一二	プラグマティズム	90
二・一三	合理主義	92
二・一四	相対主義	95
二・一五	主観主義	98
二・一六	徳倫理学	101
	第三章 倫理学の主要概念	105
三・一	絶対的と相対的	106
三・二	行為とルール	109
三・三	悪と邪悪	112
三・四	善行と無危害	115
三・五	原因と理由	117
三・六	認知説と非認知説	120
三・七	作為と不作為	122
三・八	同意	125
三・九	事実と価値	128
三・一〇	中庸	131

三・一一	名誉と恥	133
三・一二	個人と集団	136
三・一三	加害	139
三・一四	意図と結果	141
三・一五	内在主義と外在主義	144
三・一六	本来の価値と道具的価値	146
三・一七	法的と道德的	150
三・一八	解放と抑圧	152
三・一九	手段と目的	155
三・二〇	メタ倫理学と規範倫理学	157
三・二一	道德的主体と道德的行為者	160
三・二二	思慮	162
三・二三	公共的と私的	164
三・二四	ストア派のコスモポリタニズム	168
第四章 評価・判断・批判		
四・一	疎外	172
四・二	ほんもの	173
四・三	無矛盾性	176

四・四	反例	179
四・五	フェア	181
四・六	誤謬	184
四・七	公平性と客観性	186
四・八	「である」と「であるべし」のギャップ	189
四・九	正義と適法	191
四・一〇	正戦論	194
四・一一	パターンナリズム	197
四・一二	比例原則	200
四・一三	反照的均衡	202
四・一四	修復	205
四・一五	セックスとジェンダー	207
四・一六	種差別	210
四・一七	思考実験	212
四・一八	普遍化可能性	215
第五章	倫理学の限界	219
五・一	アクラシア	220
五・二	没道徳主義	221

五・三	ふたつの自己欺瞞	224
五・四	決疑論と合理化	226
五・五	墮落	229
五・六	虚偽意識	231
五・七	自由意思と決定論	234
五・八	道德運	238
五・九	ニヒリズム	240
五・一〇	多元論	243
五・一一	権力	245
五・一二	根源的個性	248
五・一三	人格の別個性	250
五・一四	懐疑論	252
五・一五	スタンドポイント	254
五・一六	義務以上の行為	256
五・一七	悲劇	259
訳者あとがき		263
索引		(i) 263